

車載化技術の実現こそ我々の道

Our Path to Creating In-Car Technologies

取締役

長光 孝司

Takashi Nagamitsu



車が私達の生活の必需品になってかなり久しくなります。毎日の様に車に乗っていて ほとんど無意識になっていますが、どんなに寒い朝でもスムーズにエンジンがかかり、その後の回転数も自動的に調整してくれます。滑りやすい路面でもしっかりとタイヤが路面を捕らえてくれます。この様に私達の知らないところでいろんな装置が働いて、安全で快適なドライブをアシストしてくれています。そして、エンタメ系では、(直接操作をする為)装置への意識はしっかり持った上で音・画・情報を これまた無意識的に楽しんでいます。

少し、我社のオーディオ開発の歴史を振り返ってみます。

1955=トヨタ「クラウン」用カーラジオ納入。(ただし真空管でAM放送のみ、ノイズ課題が大)

1959=日本初のオールトランジスタ カーラジオ開発。

1964=AM/FMオートラジオ開発。(FM放送開始の翌年)

1973=ラジオ付カーステレオ開発。(一体型のスタート)

1979=PLL^(※1)方式電子式チューナ開発。(カーラジオにマイコン搭載)

195X~1980は「たかがラジオ、されどラジオ」に対し、我々の先輩方は熱い思いを『車載化技術』にぶつけておられました。(その熱さは現在の我々より もっともっと高かったかも知れません。) 当時も今と同様、ホーム用製品のサービスを如何に車の中で提供できるか、ノイズを含めた高性能化、小型化、操作性向上など製品の複雑さは現在と大きく違いますが、挑戦し克服する気持ちに変わりはなかったと思います。

さて、我々が 現在、挑戦している『車載化技術』についてのキーワードを整理してみます。

①新メディア対応 ②小型化（高集積）③低コスト ④ノイズレス化 ⑤熱対応 ⑥電圧変動対応 ⑦耐震性 ⑧操作性（ユニバーサルデザイン含む）⑨高音響 ⑩高画質 ⑪車内情報連携 等々…。

また、当社方向性の3本柱は（1）HMI（2）センシング（ミリ波、電波メディア受信 等）（3）地球環境 です。

これらの中で（カー・インフォテイメント担当の）私自身が大いに期待しているのが以下の3点です。

- （Ⅰ）HMI＝車内外からの色々な情報を ①どのタイミングで ②音なのか画なのか ③受け手にわかるように提供する。
- （Ⅱ）電波メディア統合受信＝衛星波，地上波，路車間，車車間 等の電波を 車と一体化した「アンテナ～受信」の装置。
- （Ⅲ）車室内音響＝フラットスピーカを全面的に車と一体化させパーソナル音場を提供する。

少し上で述べたキーワードは全て重要で、どれも手を抜く訳にはいきません。しかし、こんなに多岐にわたり高度な技術開発を我々自身で全てやれない事も事実です。我社が他社にない商品を産出する為には、やはり選択と集中です。開発パワーを集中させる事で必ず、特徴ある商品を産出する事はできます。日常、何気なく乗っている車内での「小さな気付き」を徹底的にピックアップし、整理し、徹底的に意見交換して下さい。地道なアイデアの中にとってもすばらしい技術開発のネタを発見できると思います。

数ある優秀企業が手掛けている分野に目を向けつつ，車と一体になった開発要素を見つけ，育て，製品化を実現していく事こそ我々の道だと信じています。

以上

（※1）Phase locked loop